

「国際港湾物流に関する民間事業者間で流れる情報」 の実態把握について

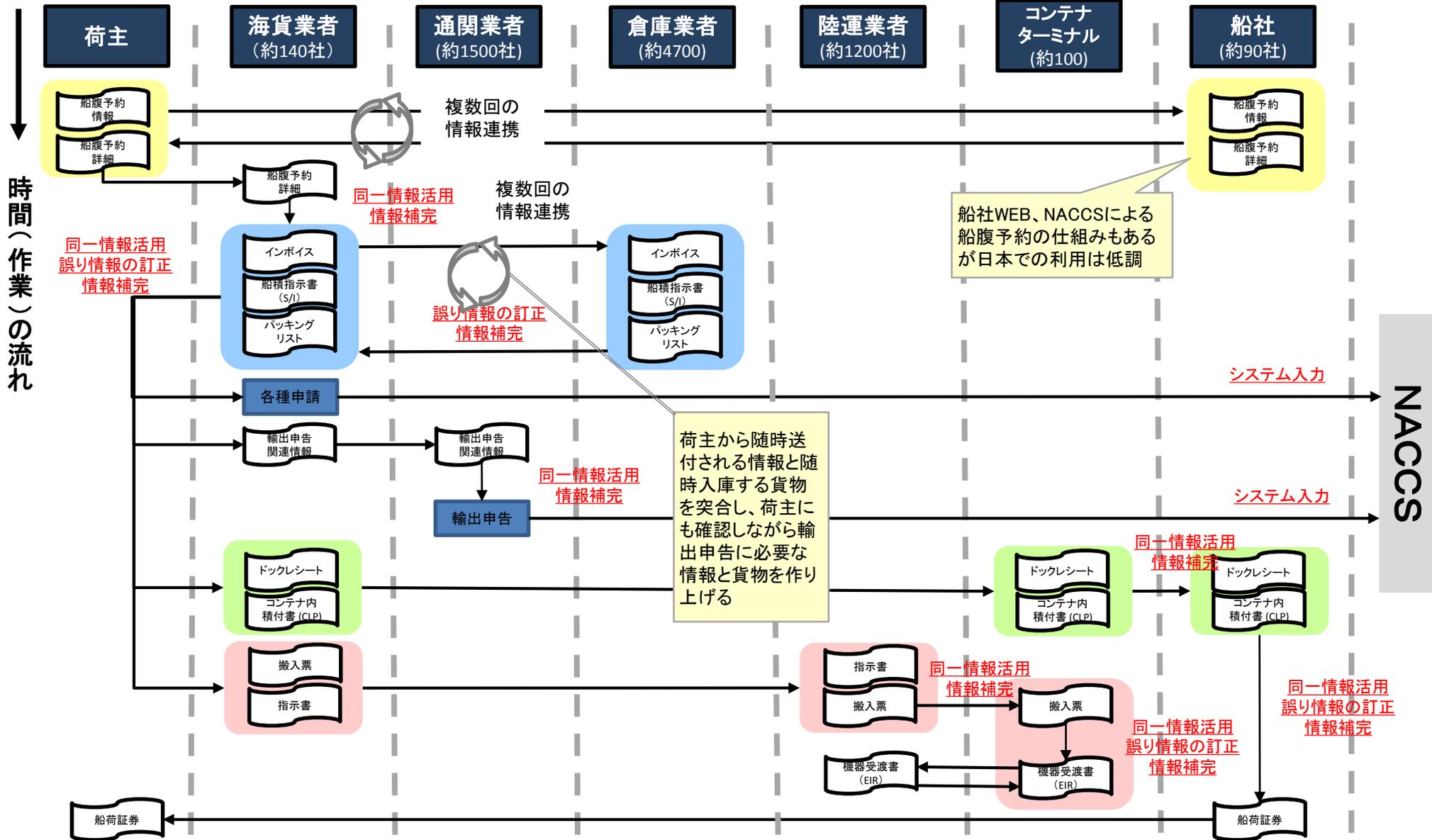
1. 実態把握の目的・内容

(1) 目的

- 2020年までに構築する港湾関連データ連携基盤は、国際コンテナ物流に関する情報を取り扱うこととしている。
- このため、国際コンテナ物流における民間事業者間を流れる情報(書類・手続き)について、関係者間で情報が効率的に流れ、生産性向上につながるようなシステム構築に必要な要件設定、仕様を検討するため、その実態を把握する調査を行う。
- 本年11月2日の「港湾の電子化(サイバーポート)推進委員会」では、事務局から作業中の業務フロー(案)を提示した上で、より詳細な把握のための調査について関係団体に協力を依頼したところ。具体的な調査内容については、各関係団体との調整を経た上で、業種・団体毎の特性を踏まえたものを設定。

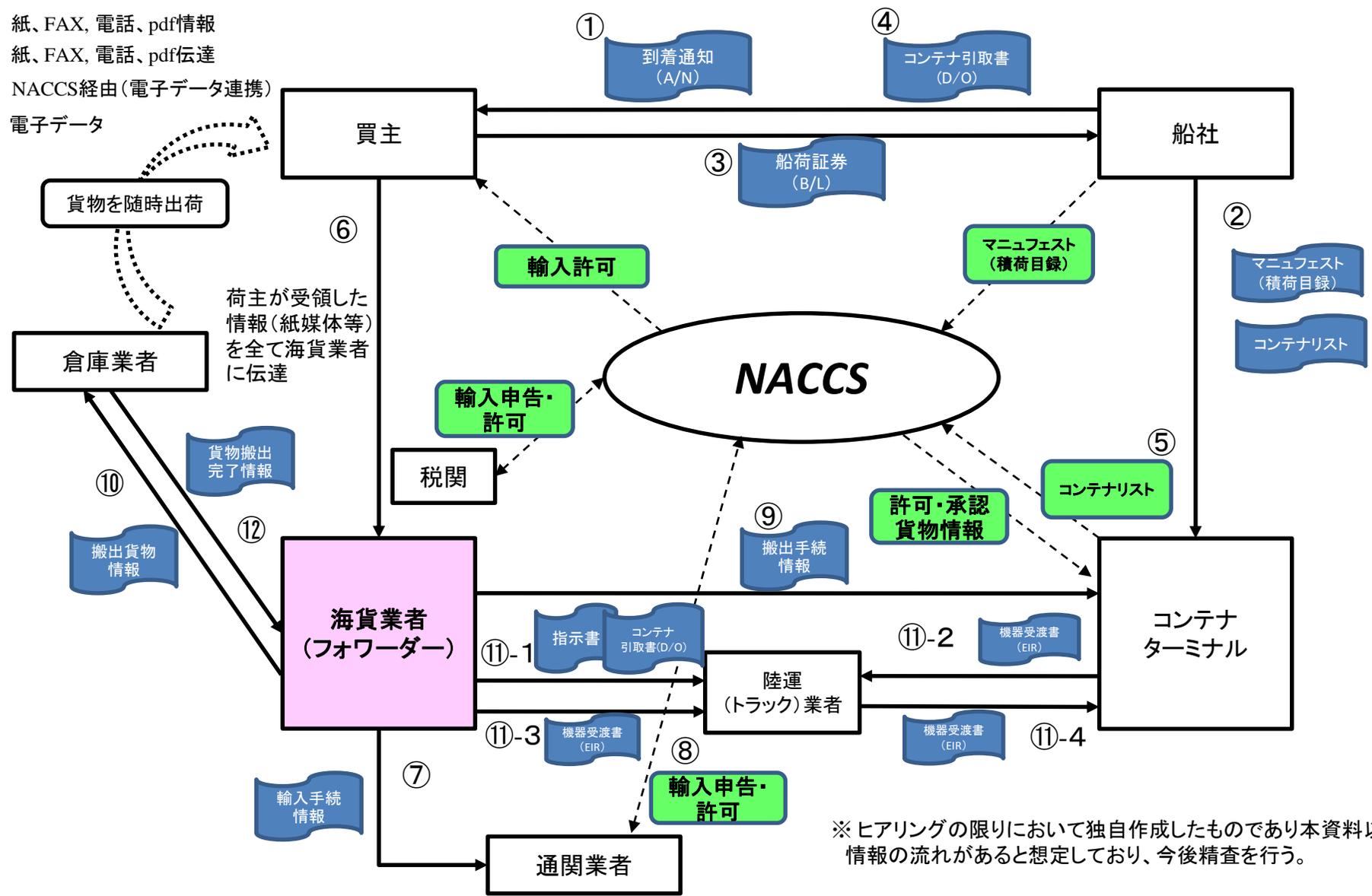
(2) 実態把握の必要性

- 国際コンテナ物流に関する民間事業者間を流れる情報について、これまでにヒアリング等による情報をもとに仮説の整理を行っているところ。
(第1回 港湾の電子化(サイバーポート)推進委員会 資料5(本資料p.2~p.5))
- しかし、細部については、(a)情報の流れやタイミング、(b)各書類に記載される項目、(c)伝達手段は一様でなく、業種・事業者によって異なるため、これらの多様性をしっかり把握した上で、システム構築に取り組む必要がある。



※ NACCS HP 船積確認事項登録(ACL)業務の概要を参考にヒアリングの限りにおいて独自作成したものであり本資料以外の情報の流れがあると想定しており、今後精査を行う。

- 紙、FAX、電話、pdf情報
- 紙、FAX、電話、pdf伝達
- NACCS経由(電子データ連携)
- 電子データ



※ヒアリングの限りにおいて独自作成したものであり本資料以外の情報の流れがあると想定しており、今後精査を行う。

1. 実態把握の目的・内容

(3) 実態把握の内容

【輸出入業務手続きに関する情報の流れの整理】

- 輸出入業務における書類及びその情報項目について、どのような手段・タイミングで、誰が入力し、誰に伝達・共有されているかを網羅的に調査し、情報の流れを整理。
- 上記を整理することで、先行して作成される書類の入力情報を、後工程で作成される書類に、どの程度が利活用（再利用）が可能であるか等を把握し、これに伴う作業の省力化等の業務改善効果を示しながら、データ連携のメリットを関係者で共有。

【アンケート調査（抜粋）】

順番	情報の送り元	業務名	情報の送り先	情報共有の手段（選択肢はp4参照）	特記事項（貿易手続に係る書類、情報受け流しのタイムイン等）
1	コンテナターミナル・デポ	空コンテナ在庫情報の伝達（空コンテナ搬出入データの連絡）	船社	(1) (2) (8) (12) (15)	コンテナターミナルまたはデポからの情報を基に、船社は空コンテナの在庫状況を確認し、ブッキング受領の可否を判断
2	荷主	ブッキング依頼	海貨	(8) (10) (13) (14)	海貨・フォワーダー、または NVOCC サービス事業者に対するブッキング依頼
3	海貨荷主	ブッキング依頼	船社	(8) (13) (14) (15)	荷主からの依頼を受けて海貨、あるいは荷主が直接船会社に対してブッキング依頼手段(15)について、船社が用意する Web サイトもしくは代行サービス（INTRRA 社、CARGONEXT 社等）を介して依頼を出すケースもある

【アンケート調査で入手する書類例】

【輸出入業務における情報項目・内容の関係性の整理】

- 輸出入業務で利用する書類のサンプルを入手し、各書類手続における情報項目・内容や、書類・手続間の情報項目等同士の関係性を整理・分析。
- 書類毎に情報項目にばらつきがあるケース、情報項目名が異なっても情報内容は同一のケース、情報内容の入力方法が選択式／自由記述など様々なケースが想定され、これらの情報項目等同士の関係性や、再利用の可否を精査。

空コンテナ ピックアップオーダー

情報項目

東京 横浜
 大阪 神戸

BOOKING No. _____

VESSEL NAME _____ VOT No. _____

SHIPPER _____

オーダー申込者名 _____ TEL _____

船名 _____ FAX _____

積込地 _____

船積港(7/15港) _____

最終仕向け地 _____

コンテナタイプ	コンテナサイズ	本数	コンテナタイプ	コンテナサイズ	本数
DRY	20 (D2)	本	FLAT RACK	20 (F2)	本
	40 (E'6") (D4)	本		40 (F4)	本
	40HC (D6)	本		20 (D2)	本
REEFER	20 (R2)	本	OPEN TOP	40 (O4)	本
	40HC (R6)	本		ターボコンテナ 機器	<input type="checkbox"/> 是

積込温度 _____℃ REAS DRYの場合はチェックを入れてください

ベンチレーション CLOSE / OPEN (_____ m/h or _____ %)

CA REEFER O₂: _____ % / O₂: _____ % / Humidity: _____ %

品名 _____

荷姿 _____

積出日 _____

ブッキング場所 _____ : 船運荷票 _____ : 市区町村 _____

運送会社 _____

情報内容

2. 実態把握の進め方

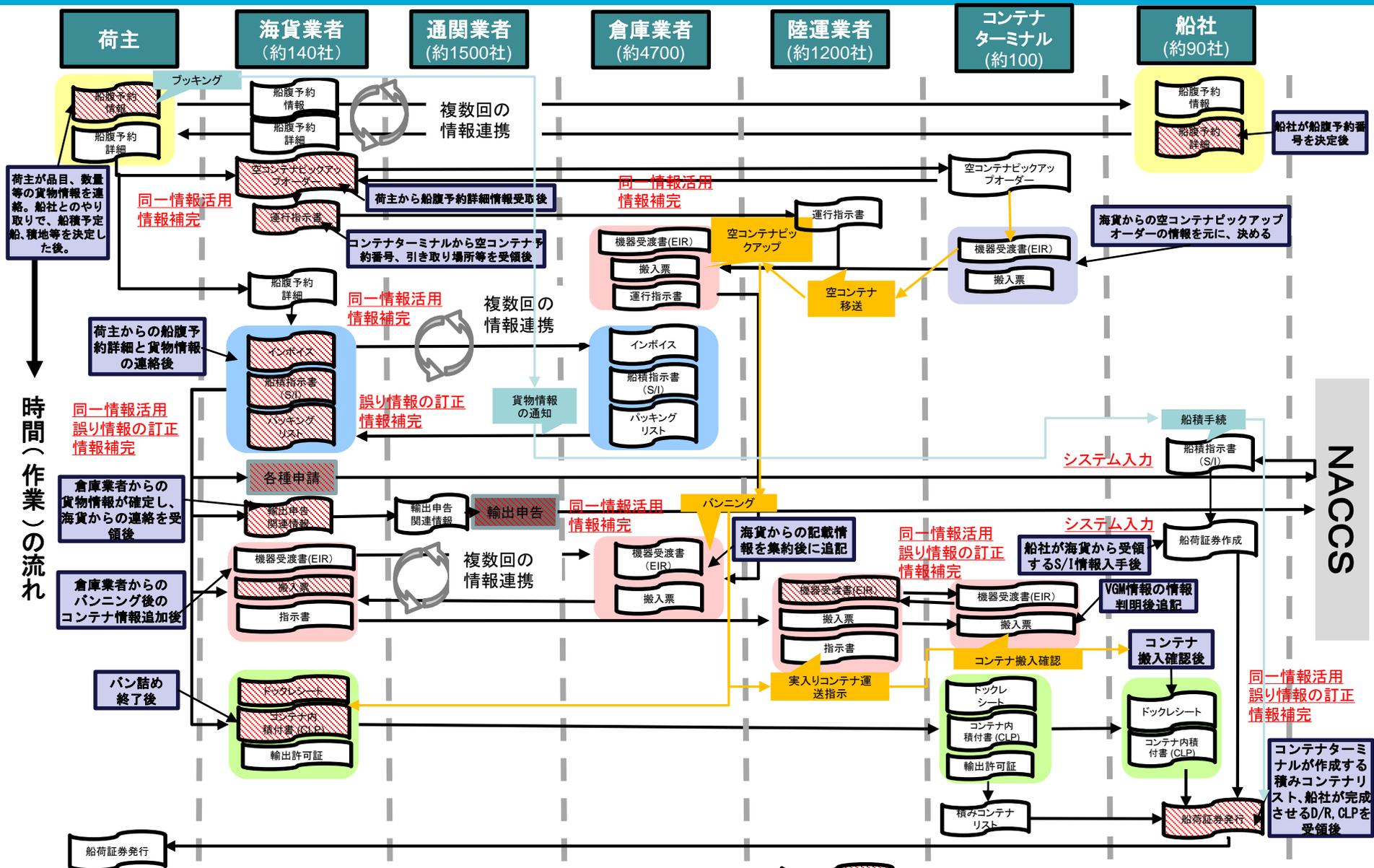
- アンケートについては、発出に先立ち、サイバーポート検討WG(港湾・貿易手続)の関係団体にアンケート内容の事前確認を行い、業種毎にアンケートの内容や調査方法、調査対象事業者、について調整し、それぞれの事情に応じた調査方法等により実施。
(例えば、先行的に数社にアンケートを実施し、概観を把握した上で対象事業者を広げる等)
- その後、アンケートの回答を踏まえ、必要な情報に不足等がある場合、ヒアリングその他の方法による追加の情報収集を検討。
- さらに、港湾関連データ連携基盤に関する要件等を整理していく過程においても、必要が生じれば、関係団体等へ個別に適宜確認。
- 調査結果のとりまとめにあたっては、企業情報の取り扱いや知見の重要性の観点から、情報管理を厳格に行う。(状況によっては、会議終了後に回収することも考慮)

3. アンケートの実施概要

- 事業者団体への個別ヒアリング等を実施し、団体ごとにアンケート調査票の内容や調査方法、調査対象事業者を調整。
 (先行的に数社にアンケートを実施し、概観を把握した上で対象事業者を広げる等)

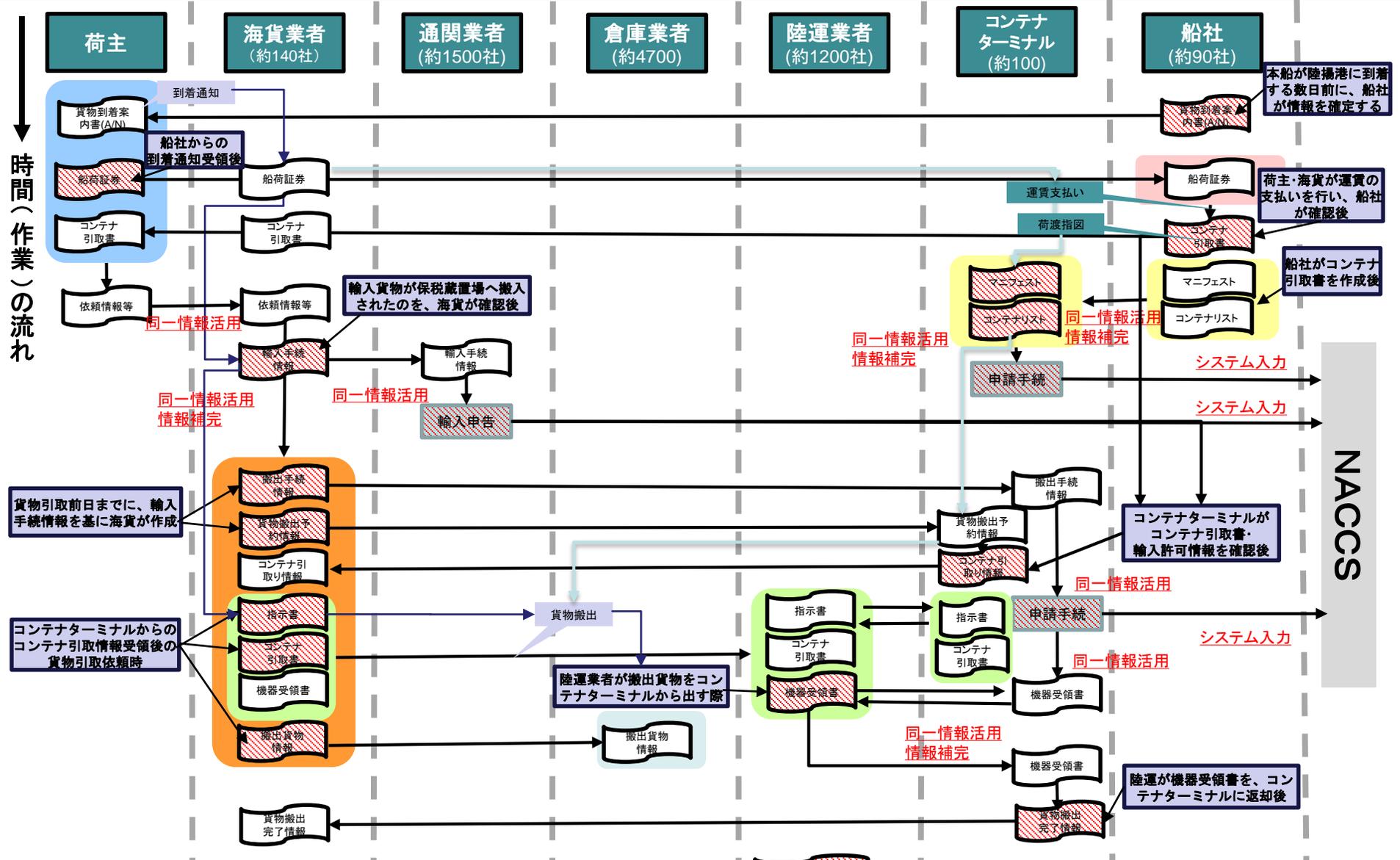
業種	団体等	会員数	アンケート	ヒアリング	備考
荷主	電子情報技術産業協会	390社	10社		
	日本化学工業協会	177社	177社		
	日本機械輸出組合	243社	38社	2社実施	
	日本経済団体連合会	1376社	200社程度		アンケートは運輸委員会の会員を対象に実施予定
	日本商工会議所	515力所	左記の一部		全国の商工会議所にアンケートへの協力を依頼
	日本貿易会	179社	22社	1社実施	
海貨 (フォワーダー)	国際フレイトフォワーダーズ協会	498社	左記の一部		アンケートは利用運送事業者を対象に実施予定
	日本海運貨物取扱業会	270社	左記の一部		
陸運	全日本トラック協会	1235社	50社程度を 予定	5社実施	
コンテナ ターミナル	日本港運協会	延べ200社程度 (ターミナル運営関係)	10社	10社程度を 予定	・アンケートの対象は、六大港のターミナル事業者から選定 ・ヒアリングは、地方港を含めて実施予定
船社	外航船舶代理店業協会	105社	左記の一部		
	外国船舶協会	18社	13社		
	日本船主協会	125社	左記の一部		アンケートの対象は、コンテナ関係1社程度
	日本船舶代理店協会	357社	左記の一部		
	日本内航海運組合総連合会	5組合	4社予定		
港湾管理者	神戸市	-	実施中		電子化に関する要望や課題を中心に確認
	静岡県	-	実施中		〃
	東京都	-	実施中		〃
	名古屋港管理組合	-	実施中		〃
	福岡市	-	実施中		〃
	横浜市	-	実施中		〃
港湾運営会社	阪神国際港湾(株)	-	実施中		〃
	横浜川崎国際港湾(株)	-	実施中		〃

4. とりまとめのイメージ①: 情報の流れ(輸出業務関係)



※ NACCS HP 船積確認事項登録(ACL)業務の概要を参考にヒアリングの限りにおいて自作作成したものであり本資料以外の情報の流れがあると想定しており、今後精査を行う。

4. とりまとめのイメージ②: 情報の流れ(輸入業務関係)



※ ヒアリングの限りにおいて独自作成したものであり本資料以外の情報の流れがあると想定しており、今後精査を行う。

 ...書類情報(内容が確定する)
 ...文書作成に先立つ行為

4. とりまとめのイメージ③: 再利用可能な情報の把握

- 手続きの前工程で先行して作成される書類の情報項目について、後工程で利活用可能な情報項目を把握。
- 例えば、船会社名の項目は、①船腹予約で荷主等により入力されるが、②船積指図書、⑥搬入票、⑦船荷証券でも同項目が再入力される場合がある。

※ 下表は現時点の資料で整理したものであり、今後実施するアンケート等により詳細を把握する。

手続の工程

書類名	①	②	③	④	...	⑤	⑥	⑦	...
情報項目	船腹予約	船積指図書	インボイス	パッキング・リスト	...	コンテナ内積付書	搬入票	船荷証券	...
情報項目数	32項目	36項目	22項目	16項目	...	22項目	34項目	35項目	...
重複項目数		6項目	4項目	5項目	...	13項目	14項目	26項目	...
船会社名	①	①	-	-	...	-	①	①	...
荷送人	①	①	①	-	...	-	①	①	...
荷受地	①	①	-	-	...	-	-	①	...
本船名	①	①	-	-	...	①	①	①	...
船積港	①	-	-	-	...	-	①	①	...
荷卸港	①	-	-	-	...	①	-	-	...
ブッキング番号	①	①	-	-	...	①	①	-	...
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	...	⋮	⋮	⋮	...
荷受人	-	②	②	-	...	-	-	②	...
着荷通知先	-	②	-	-	...	-	-	②	...
商品明細	-	②	②	②	...	-	-	②	...
運送会社	-	②	-	-	...	-	②	-	...
容積	-	②	-	②	...	②	-	②	...
コンテナ総重量	-	②	-	②	...	-	②	-	...
航海番号	-	②	-	-	...	②	②	-	...
パッケージ数	-	②	-	-	...	②	-	②	...
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	...	⋮	⋮	⋮	...

※代表的な書類を抜粋

4. とりまとめのイメージ④：各書類に記載される項目のばらつき

- 同じ「輸入コンテナ搬出票」でも、使用される企業毎、港毎に情報項目にばらつきがある。
- さらに、同じ情報項目でも、書類毎に違い(情報の粒度、データの型)がないか詳細に確認。

輸入コンテナ搬出票の記載項目の例

	搬出票	A社	B社	C社	D社	E社
1	申請種別(新規・変更・キャンセル)	●				
2	申請年月日					●
3	社名 連絡先					●
4	連絡先		●	●		
5	荷渡指図書不要番号	●		●		
6	書類番号	●				
7	申し込み内容				●	
8	搬出予定日	●	●	●	●	●
9	船会社名	●		●		
10	本船名	●	●	●	●	●
11	航海番号	●	●	●		●
12	B/L番号	●	●	●	●	●
13	口数					●
14	搬出場所			●		
15	デバン場所	●		●		
16	運送会社名	●	●	●		●
17	運送会社電話番号		●	●		
18	運送会社FAX番号		●	●		
19	運送会社担当者氏名		●	●		
20	コンテナ番号	●	●	●	●	●
21	コンテナサイズ					●
22	コンテナタイプ					●
23	コンテナ種類	●	●			
24	通関(済/未)			●		
25	海貨業者名				●	
26	搬入日時				●	
27	返却予定日		●	●		
28	搬入先		●		●	●
29	備考		●			